

3年目を迎えたクリエイティブ・インダストリー・ショーケースin関西2009

クリエイティブの祭典、クリエイティブ・インダストリー・ショーケースin関西(CrIS(クリス)関西)。クリエイターの発掘・育成・交流、マーケットの形成を促進することを目的にイベントを集中的に開催するもので、2007年から開始された取り組みである。3年目を迎えた今年は、9月上旬から11月末の約3カ月間、関西2府5県で過去最大の20イベントを開催した。その概要を紹介する。

今年の特徴

CrIS関西2009は、東京で開催されたJAPAN国際コンテンツフェスティバル(CoFesta(コ・フェスタ))のパートナーイベントとして、産学官連携のもと、関西のコンテンツ産業の振興を目的に実施しており、今年で3年目を迎える事業である。

滋賀・福井が加わり2府5県と参加地域が広がり、デザインやクラフトの分野も加わって、事業数も昨年の13事業から20事業へと拡大したことが今年の特徴である。

また、各事業に一体感を醸成しようとして、「温故知新～関西×歴史伝統×交流=創造産業～」という共通テーマを設け、関西で培われた伝統文化とクリエイティブな産業の交流を通じ、新たなコンテンツ産業を生み出そうとした。また、WEB上に常設のクリエイターズコミュニティサイト「スペースサロン(<http://spacesalon.criskansai.jp/>)」を開設し、この社交場を通じて、関西のクリエイティブシーンを創造してもらうよう支援した。そして初の異分野交流イベント「クリエイターズミーティング2009」とサテライトイベントとして、船上ワークショップを開催。全期間

を通じて、目標の集客人数30万人を上回る参加者を得たパワー溢れる事業となった。

グランドセレモニー

10月1日(木)、CrIS関西グランドセレモニーがCoFesta初の地方開催イベント“KYOTO Cross Media Experience 2009(KYOTO CMEX)”と合同で、京都の西本願寺にて開催された。

1部では、国宝である書院内の鴻の間、飛雲閣を見学し、参加者は京都の伝統文化コンテンツに浸った。また、2部の交流会では齋藤・KYOTO CMEX実行委員長ならびに下妻・CrIS関西実行委員長による主催者挨拶の後、トランペッターの近藤等則氏とメディアアーティストの土佐尚子・京都大学教授による「音と光のページェント」が披露され、ミステリアスな異空間に、200人を超える来場者が魅了された。

クリエイティブビジネス・マーケット「大阪創造取引所」

10月27(火)～28日(水)の2日間、関経連と近畿経済産業局(近経局)が中心となって、大阪府・市・大商共催による“クリエイティブでビジネス

を創る”展示・商談会「大阪創造取引所」が堂島リバーフォーラムにて開催され、約2,300人の来場者を得た。

2回目となる今回は、53のクリエイティブ系企業・団体が優れたデザイン、先端技術、アイデア等を活用した品々を展示。昨年高い実績を残した出展者向けの特別商談コーナー「バイヤーズステージ」では、毎日放送や電通、博報堂といったメディア系企業に加え、旭屋書店、一本松海運、岩谷産業、がんこフードサービス、鴻池運輸、サントリー、シャープ、宝塚クリエイティブアーツ等、バラエティ豊かなジャンルの34のバイヤー企業・団体が参加した。バイヤーズステージを含めた2日間の商談件数は750件以上となり、うち事務局がアレンジした517件の商談の成立見込・継続率は47%に達した。

また、初めて開催した「創造取引クラブ公開ミーティング」では、香港発のコンテンツビジネスの仕掛け人であるベンジャミン・ヤウ氏やロボットビジネスのスペシャリスト石黒周氏など、多彩なゲストを招き、創造性をビジネスに取り入れる方法やその効果、取引の進め方やルール等について6ステージ開催した。

当会もバイヤーズステージに参加するとともに、「関経連 クリエイター募集



大阪創造取引所 出展ブース



関経連が公開ミーティングに参戦



秋元康氏・藤原ヒロシ氏によるトークセッション



カラフルなバイヤーズステージ

企画「関西の未来を描こう」と題し、公開ミーティングにも参加。昨年10月に公表した「関西ビジョン2020」を次世代を担う若年層に対してわかりやすく表現し、関西の未来を一緒に描いてくれるクリエイターを募集した。

クリエイターズミーティング 2009

10月27日、大阪大学中之島センターにおいて、CrIS関西にかかわるクリエイターの方々や、関西のコンテンツ系学校の学生を対象とし、今後の

関西のクリエイティブ産業を支えるクリエイターの方々に向けた新しい取り組みとして、関経連と近経局が主催したのが題記のイベントである。

1部では作詞家で京都造形芸術大学副学長の秋元康氏と音楽プロデューサーなど多彩な活動をしている藤原ヒロシ氏により、クリエイティブビジネスの現状や今後の展開に関するトークセッションを行った。トークセッションでは、体制に反骨する精神の重要性や年代性別時代を問わず愛し続けられる“カルピスの原液”をめざすべきとの発言があるなど、今後クリエイターをめざす若者たちに大きな刺激を与えた。

2部の交流パーティーには、約160人が参加し、新たなネットワークを築こうと会場は熱気に包まれた。

このパーティーにおいてCrIS関西2009公式キャラクターの表彰式も執り行われ、塩崎榮一氏の作品「クリ



交流パーティー

エちゃん」が最優秀作品賞として表彰された。

翌28日は、サテライトイベントとして、メディア系の仕事を希望する方々を対象にした船上ワークショップをほたるまの船着場にて開催した。毎日放送の横山氏とクリエイターのチュラキューブ中川氏により、「メディアの仕事がしたいなら、メディア担当者にかよう売り込め～プレゼン虎の巻～」と題し、学生・クリエイター他30名に対して、自らの経験談をもとに熱いメッセージを語ってもらった。

(産業部 加宮義隆)



公開ミーティング



船上ワークショップ